公開実用 昭和51—131226



等用新案登録願(1)

(1,500円)

昭和50年 4 月15

特許庁長官 英 雄 殿

1. 考案の名称 オンキョウ グビ 音響 レンズを具備 するスピーカ

2. 3 者

> 大阪府門真市大学門真1006番地 松下電器產業株式会社內

3. 実用新案登録出願人

大阪府門真市大字門真1006番地 137 松下電器產業株式会社 名 杯 (582)

什 松 下 狄 者 Æ.

4. 代 理 人

〒185 東京都国分寺市南町三丁目12番11号

Æ (7483)4,

弁 理 士

嘂

5. 添付書類の日録

(1) 明 細 書

(2) |刻 函

(3) 委 任 状

(4) 願 書 副 水



ail

1 通

治

1 通

1 通

1 通

50-050946

書

1. 考案の名称

音響レンズを具備するスピーカ

2. 実用新 案 登 録 請 求 の 範 囲

複数の円錐形管を同心に配置し、前記円錐形管相互間に環状空間を中心より外方に行くに従い段階的に長くなるよう構成し前記円錐形管を相互に連結してなる音響レンズを少く共1個ホーン出口に取付けてなる音響レンズを具備するスピーカ。

3. 考案の詳細な説明

この考案は各方向に方向性なく音波が広がる音響レンズを具備するスピーカに関する。

オ1 図にホーンスピーカで従来使われている音響レンズを取り付けたホーンスピーカの一例を斜視図で示す。 オ2 図はこのスピーカの一部切欠断面を持つ側面図、オ3 図は平面図である。

図において、(1) はドライバー部、(2) はホーン、(3) は音響レンズ部を示す。音響レンズ部(3) はレンズ素子(4) の積み重ねにより構成されている。このスピーカについて簡単に音響レンズ部(3) の動作を

公開実用 昭和51—131226

説明する。

ドライバー部(1) より発せられた音波はホーン(2) の内部をホーン開口方向に伝わりホーン(2)の開口 部と音響レンズ部(3)の接合面付近では大略、平面 波となつている。今、音響レンズがないとすれば ホーン開口寸法と同一寸法を持つ平面振動板と同 等の指向性を持つスピーカとなる。しかしことで 音響レンズ部(3)をホーン開口部に取り付けること によりホーン開口部より音響レンズ開口部に音波 が伝わる間に音の波面が変化し音響レンズ部 ③の 開口部ではレンズ素子(4)の積み重ね方向と直角を 方向に円弧状になる。そのため音波の指向性が鈍 くなり結果的に音響レンズがない場合に比べて広 い範囲に音響パワーを放射できる。ここで音響レ ンス部3について詳細に説明する。音響レンス部 (3) は音響レンズ素子(4) が分2図の断面図に示すよ うにホーンの軸方向に対して所定の角度を持ち、 かつ所定の間隔をもつて積み重ねられている。と れらの角度および間隔は指向性の状態、ホーン開 口寸法などにより決定されるものである。このよ

従来の音響レンズの動作は以上のとおりであるが、形状が大きく取扱いが不便である欠点と動作においても音響レンズ素子の積重ね方向すなわち垂直方向に対し指方性の改良が行われない欠点がある。

この考案は従来の欠点を除去し、形状が小形で 取扱いが簡易で、水平、水垂、斜各方向に指向性 を改良した音響レンズを具備するスピーカを得る ことを目的とする。

公開実用 昭和51-131226

この考案を図面に基づいて説明する。

オ4図にはこの考案による音響レンズを取り付けたホーンスピーカの軸方向の一部切欠断面図を示す。図においてらはドライバー部、6は円形断面を持つホーン、70、8はホーン開口面に接して設けられた音響レンズ素子であり9は音響レンズをホーンに結合するためのフランジである。

オ 5 図 , オ 6 図は音響レンズ素子のの平面図をよび断面図である。この音響レンズ素子のはオ 5 図 , オ 6 図に示す通り、複数個のスリット 81 , 82 81 … などを形成するように円錐形管 C1 , C2 , C3 … を設け結合ブリッジはで結合する。

オ4図では図を見やすくするために音響レンズ 素子を構成する円錐形管、スリットの数は为5図 オ6図のものに比べて省略して画いてある。円錐 形管のテーパ部の傾きおよびリングの厚み、リン グ間の寸法は指向性、ホーン開口寸法などにより 決定される所定の値である。

オ 4 図に示す音響レンズ素子のおよび同形状で 反対の面で向き合わせたレンズ素子®を設けた音

響レンズ部を有するホーンスピーカの動作を説明 するo ドライバー部(5) より発せられた音はホーン 部 6 の 開口付近では平面波になり、この音響レン ズ素子を通過する音は円錐形管間の環状のスリッ トを伝わる。このスリットの長さは音響レンス中 心部を通過する音と、周辺部を通過する音は分も 図から明らかなように異なり、周辺部を通過する 音の通路長が中心部に比べて長く、出口は円形に 配置されているので、音響レンズ部の出口では音 の波面が球面上になつてくる。その結果、各方向 の指向性が改善され、音響レンスのない場合に比 べて、また従来の音響レンスに比べより広い範囲 に均等に音響パワーを放射できる。との考案の例 は音響レンズ素子が2個の場合について述べたが、 1個または3ケ以上の場合でも音響レンズとして 動作することは明らかである。

この考案は上記の構造に基づいて次の作用効果を生ずる。

(I)、音響レンズの形状を小形に出き、取扱い易い。

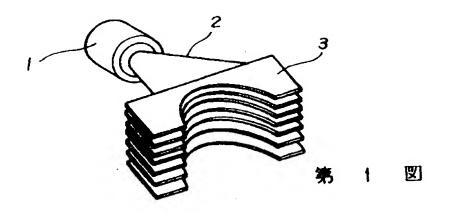
公開実用 昭和51-131226

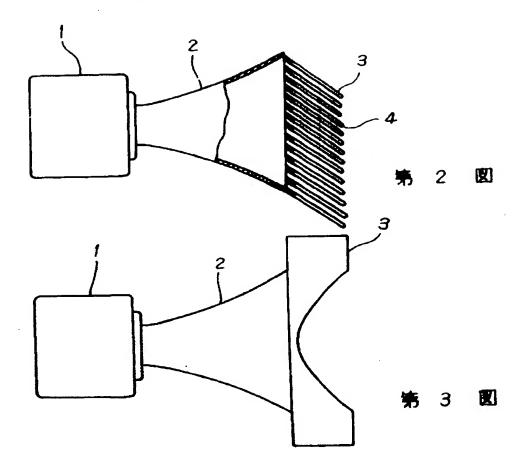
- ②、指向性を広げることにより音響パワーを所 定の範囲に分配することができる。
- ③、音響レンズ素子の枚数を変えることにより 指向性が可変にできる。
- (4)、音響パワーの分配に対してスピーカの中心 に対して点対称となり方向性がなくなる。
- 4. 図面の簡単な説明

オ1図は従来の音響レンズを具備するホーンスピーカ、オ2図は一部切欠断面を持つ側面図、オ3図は平面図、オ4図はこの考案の音響レンズを取付けたホーンスピーカを一部を切欠した断面平面図、オ5図はこの考案の音響レンズの平面図、オ6図は断面図、をそれぞれ示す。

5 : ドライバー部 6 : ホーン 7 , 8 : 音響 レンズ素子 9 : 連結フランジ S₁ , S₂ ... S_n : スリット C₁ , C₂ ... C_n : 円錐形管

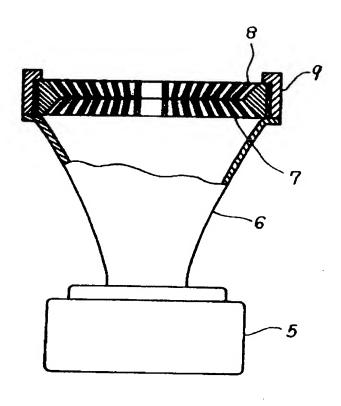
実用新案登録出顧人 松下電器産業株式会社 代 理 人 弁 理 士 阿 部 功





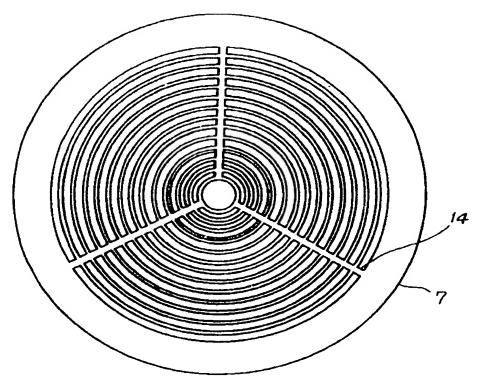
131226/3
代理人弁理士 阿 部 功

公開実用 昭和51—131226

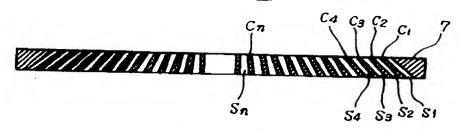


第 4 図

131228 **河** 部 **功**



第 5 図



第 6 図

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:
BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
FADED TEXT OR DRAWING
BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
□ other:

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.